

指標 9.4.1

指標名、ターゲット及びゴール

指標 9.4.1 付加価値の単位当たりの CO2 排出量

ターゲット 9.4 2030 年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。

ゴール 9 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

定義及び根拠

- 定義
この指標は、CO2 排出量と、関連する経済活動の付加価値の比として定義される。
- 概念
CO2 排出量については、実測した値ではなく、各種統計を用いて算定した値である。
- 根拠及び解釈
この指標は、経済活動によって排出された CO₂ 排出量を経済的成果物の単位で測定する。
製造業は一般に、各国の工業化が進展するにつれて排出量を改善していくが、構造変化や製造における製品の多様化によっても排出量を減らすことができることにも留意が必要である。GDP 当たりの CO₂ が低い場合は、より効率的な製造構造であると解釈することができる。

データソース及び収集方法

日本は各種統計及び IPCC ガイドラインに基づいて、CO2 排出量を算定している。

算出方法及びその他の方法論的考察

- 算出方法
この指標は、以下の計算式を使用して計算できる。

$$\text{GDP 単位当たりの CO}_2\text{排出量} = \frac{\text{CO}_2 \text{ 排出量(t)}}{\text{実質GDP(日本円)}}$$

- コメントと限界
なし

データの詳細集計

なし

参考

日本国温室効果ガスインベントリ報告書

<http://www.env.go.jp/earth/ondanka/ghg-mrv/emissions/results/index.html>

データ提供府省

環境省（独立行政法人国立環境研究所）

関連政策府省

経済産業省、環境省

担当国際機関

国連工業開発機関(UNIDO)